

13-6 施設・設備等

- A群・施設・設備等を維持・管理するための学内的な責任体制の確立状況
- B群・実験等に伴う危険防止のための安全管理・衛生管理と環境被害防止の徹底化を図る体制の確立状況
- B群・学術資料の記録・保管のための配慮の適切性
- B群・国内外の他の大学院・大学との図書等の学術情報・資料の相互利用のための条件整備とその利用関係の適切性

研究科全体

2003年の相模原新キャンパスへの移転により、本学部・研究科の教育・研究施設及び教育・研究環境は飛躍的に改善された。また、バリアフリーのための配慮が校舎の設計時からなされていることも注目すべき点である。

大学院専用の設備としてはネットワーク機器がある。これらの機器は高速化、処理性能、柔軟性（LANの配線と設定の変更可能性）、管理機構等を高めて利用形態の変化にも十分耐えられるように高性能超高速ワークグループスイッチ（インテリジェントなネットワーク交換機）と、情報発信、情報アクセス、管理情報提供、ネットワーク管理のための各種サーバが複数台あり、0棟404室のサーバ室（18㎡）に設置されている。LANはキャンパス内の基幹LANを経由して外部のインターネットに接続されている。情報通信設備も十分に整備されていえる。

また、相模原移転に伴い、生命科学コースの管理する特別実験室として、**動物飼育室及び遺伝子組み換え実験室**が新たに整備され、これにより、同分野の研究環境は飛躍的に向上した。

相模原キャンパスでは、強力・大エネルギーを発する機器などを設置することもあり、設計時より事故防止・安全確保に十分配慮されて建設されている。また、全学横断組織として**環境安全管理委員会**が設置され、**キャンパスの安全管理・衛生管理と環境被害防止対策を統括**しており、そのとりまとめを本研究科が行っている。その中で、とくに化学コースでは有害で危険な薬品を取り扱うことが多く、学生への教育指導の徹底と危険を伴う実験作業の個別のマニュアルの作成に取り組んでいる。事故の被害を最小限に抑えるためには、事務組織とのさらなる連携も必要であり、現在、安全管理を徹底させるために**教員と事務が共同で複数のワーキンググループを結成**し、有害化学薬品の取扱いルール見直しや危機管理のありかた等について検討を行っている。また、この委員会を母体として**自治体及び地域住民と環境安全協定を結び、年に1回環境安全協議会を開催して意見交換**を行っている。

国内外の他機関との図書等の相互利用については、「図書館及び図書電子媒体等」の「理工学部」の項目でも記述したとおり、改善の余地は見られるものの、おおむね満足のいく状況にある。

学術資料の記録・保管に関しては、修士論文やその資料等は冊子として所属研究室にスペースを用意して保管している。また、コースによっては修士論文のアブストラクト集を編集し、冊子として各研究室に配布している。